第4回長野市都市計画マスタープラン改定専門部会 意見一覧表

	心儿 克以 * - D * B * A * A * A * B * B * B * B * B * B				
	項目	第4回専門部会での発言		対応方針	
	74 H	ご意見	事務局等の回答	71/07551	
【市民意	識調査について】				
大	諏請査について 回答者の地域や居住 形態の偏り	○市民アンケートにおいて、回答者の属性が実際の長野市の状況と同じになっているか。○居住地域、居住形態で偏りがないのか。	○3地域でみると、配布数に対する 回答率がほぼ横並びなので、実際 の長野市のバランスと大差ないと 考えている。	→居住地域について、住民基本 台帳のデータより、回答者と 3地域別の偏りがないこ。 →居住形態について、令和5年 住宅・土地統計調査に居住形態に合いた。 は約30%、その他(公学)は約5%である。 は約30%、その他(公学)は約5%である。 は約15%、その他(公学)は約5%である。 は約15%、その他(公学年 の割合は約80%、賃貸営生宅 の割合は約80%、賃貸営生宅 の割合は約5%である。 は約15%、その他(公学年 の割合は約5%である。 は約15%、その他(公学年 の割合は約5%である。 は約15%、その他(公学年 の割合は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。 は約5%である。	
				約15%多く、賃貸の割合が約 15%少ない。	

	項目	第4回専門部会で	の発言	対応方針
	切 口	ご意見	事務局等の回答	※I NC /J 並「
		○層化抽出の想定通りの抽出になっているの か。	○地域の人口に応じた配布数であり、配布数に対しての回答率も地域で差がなかったため、ある程度は地域の人口構成に講じた回答数が得られている。	➡左記回答のとおり。
	鉄道・バス利用圏域 の人口分析	〇ヒートマップという形で鉄道・路線バスまで の距離を一部取り上げているが、そこを強調 したいのであれば、例えば鉄道駅から800m圏 内、かつバス停から300m圏内に居住している 人口がどのくらいかなどは検証しておいた方 がいいと思う。	○ポイント人口を使えば鉄道やバス	→住民基本台帳のデータより、 鉄道駅から800m圏内、かつバス停から300m圏内に居住している人口を集計した。アンケート回答者と実態の偏りは無いことを確認した。
	分析区分	○特に3地域別で満足度と何を重視しているのかはクロス集計をしたほうがいい。○3地域によらず、ものによってはもう少し細かく地区別に見たほうが良い。○若者向けアンケートに関して、高校生と高校	に大切な観点となるため、クロス	★左記回答のとおり。(第5回専門部会 資料3)★若者アンケートで高校生年代
		生以上では、ライフスタイルが違うと思う。 高校生の意見と高校生以上の意見を分けて見 ていただきたい。		と高校生以上年代に分けて集 計した。 (第5回専門部会 資料3)
	前回との比較	○前回アンケートとの比較は今後行わないのか。これまでの調査で改善できていなかったが改善できているところなどが見えてくると良いと思う。丁寧な分析が必要。		➡左記回答のとおり。 (第5回専門部会 資料3)
分析結果について	共起ネットワーク分 析	○共起ネットワーク分析で線の太さに違いが見 えないが、関係性の強弱にあまり差がないと いうことか。	○今回の回答からは、実線と点線の 関係性の違い程度しか見えてこな かった。	➡左記回答のとおり。

香口	第4回専門部会で	対応方針	
項目	ご意見	事務局等の回答	X NC / 7 並 [
【学生と市長との意見交換の報	告について】		
技術革新(空飛ぶ車、自動運転)の反映	 ○空飛ぶ車に関する研究は長野市でも進めているのか。 ○点と点で結んでしまうと間の都市を全く通過しなくなってしまう。今後進める際にはぜひ慎重にやっていただきたい。 ○空飛ぶ車も自動運転も、どこまで普及するかによって交通の問題もだいぶ変わる。今回のマスタープランの中に入れ込むのは時期尚早だが、扱いは今後の議論の中で検討させていただきたい。 	○長野市では、イノベーション推進 課を窓口として県と連携体制はと っているが、市として個別には進 めてはいない。	→技術革新については、どの程度計画に書き込むか、今後の議論の中で検討する。
今後の学生からの意見収集の機会	○今回集まっていただいた学生に、今後さらに 「計画の実現可能性や足りていないことな ど」について意見を聞ける機会があると良い と思う。○総合計画の策定のプロセスの中でもう一度学 生が市長と意見交換をするという予定はある のか。	て、できるだけ広い聞き方や手段 で多くの方に意見を聞きたいと考 えている。詳しくは今後検討した	■パブコメに加えて、地域別意見収集を実施するなど、広い聞き方・手段で、多くの方々の意見を聞く方法を検討する。

	項目		第4回専門部会での発	I	対応方針
	- 現日		ご意見	事務局等の回答	一 对心力如
【都市つ	ざくりの理	念・目標及び	分野別方針の改定の方向性について】		
理念・	理念	総合計画と	○総合計画のまちづくり方針の3つがこの都市計		➡都市づくりの理念・目標は、
目標		のつながり	画マスタープランの理念につながるという論		総合計画のまちづくり方針と
			理的なつながりがわからない。特に、総合計		の繋がりも考慮しながら、再
			画の「市民の幸せの実現」につながる目標設		検討し表記する。
			定がないのは違和感がある。ソフト面のまち		(第5回専門部会 資料5)
			づくりにも触れていくのであれば、幸せの実		
			現についても盛り込んでもいいのではと思		
			う。		
		表現	○理念は「長野に住みたいな」と思えるような		➡都市づくりの理念・目標は、
			言葉で表現をすることが大事。持続可能とい		長野市の良さやそれを将来に
			う観点はもちろん前提としてしっかり書く必		どう繋げていくかも踏まえ、
			要はあるが、表現はもう少しポジティブに、		計画を読んだ人が、未来に向
			若者が未来に向けて希望を抱けるような表現		けて希望を抱けるような表現
			にしていただきたい。		となるよう再検討し表記す
					る。
					(第5回専門部会 資料5)
		中山間地域	○今の理念・目標では、総合計画と整合性が取		➡総合計画と整合が取れるよ
			れていないと思う。人口減少禍でのまちづく		う、都市づくりの理念・目標
			りを考えると、中山間地域の在り方・ビジョ		を再検討する。重点的に記載
			ンにも触れないと、市民の幸せの実現に対し		したい都市計画区域内につい
			ての整合性が取れないと思う。		て検討するためにも、中山間
					地域のあり方も含め、市域全
					体を考慮しながら検討を進め
					る。

	項目		第4回専門部会で	の発言	対応方針
	- 現日		ご意見	事務局等の回答	对心力剪
	目標	めりはり付	○「都市づくりの目標 (たたき台)」の「人口減		➡従来の都市計画の観点に留ま
		け	少下でも持続可能な都市づくり」というとこ		らず、将来に繋がるような観
			ろは、いろいろな観点が混ざっているため分		点も計画に位置付ける。例え
			けて書いた方がいい。きちんと限られた投資		ば、"稼げる都市"といった
			でまちの機能を維持していくための集約化、		経済面からの観点を背景に、
			めりはり付けは大事。		分野別の方針に産業(工業、
		テーマごと	○経済活力という観点では産業立地。その他、		商業、観光業など)に関する
		の設定	まちなかのスタートアップ、イノベーティブ		内容を新設したい。
			な環境を作っていくという観点もある。テー		(第5回専門部会 資料5)
			マが変わってくるものは目標が増えたとして		
			も明確に分けておいたほうがいい。		
拠点に	拠点の再	手検討の必要	○長野市においてもいくつかの拠点を拠点設定	○基本的には拠点を減らす、落とす	➡本格的な人口減少の局面が進
ついて	性		から外す、もしくは、上位拠点を少し下の拠	ということは考えていない。	行する中、各拠点の配置や目
			点に落とすことは検討されているのか。今		指す都市構造について、現行
			後、人口の奪い合いや地域が衰退する可能性		計画の継承に留まらないよ
			を考えると、客観的なデータから厳選の検討		う、再検討する。
			をしていただければと思う。		(第5回専門部会 資料5)
			○人口減少の局面に入ってきている中で拠点を		
			そのまま残す、変えないということに違和感		
			がある。実際に生活インフラが減ってきてい		
			るのに細かく分類しながら拠点として見せて		
			いくことに意味があるのか疑問。		
			○人口減少過で拠点を整理しないのはおかし		
			い。中山間地の在り方を考えたうえで整理し		
			ていくべき。		
	拠点・集	ミ計単位の確	○現行計画で大豆島は生活拠点に入っているの	○現行計画の生活拠点には入ってい	➡左記のとおり。
	認		か。	ないが、人口の集積状況等を考慮	
				し、参考として現状把握した。	

	項目	第4回専門部会での発言		対応方針
	坝 口	ご意見	事務局等の回答	一 対ルンフェ
今後の方向性	まちの魅力	○生活拠点から800mの範囲を見ているが、立適の居住誘導からはずれているところがある。今回見ている人口は、居住誘導区域だけ見ているのか、800m圏域すべてで見ているのか、確認いただきたい。 ○市民アンケートの結果を数字や表だけで見るのではなく、もう少しまち全体の環境として、地域の方々と一緒になって、本当に住みたくなる地域の環境をしっかりつくっていくことが大事。単に道路を広げればいいということではなく、まち全体として魅力的な環境をどう維持していけるのかというところを、	7-13/10 A AND	→今回の集計では、800m圏域すべてを対象にしている。今後の検討のために、800m圏内、かつ居住誘導区域についても人口推移を把握する。 →市民アンケート結果及び現状把握のための各種データ集計について、単体の数字や表のみで見るのではなく、全体像を掴みながら検討する。地域別懇談会をはじめ、地域の方々と対話した内容を計画へ
	中山間地域	今回のマスタープランでは少し丁寧に書けるといい。 ○中山間地域においても、まちなかとは違う魅力があるため、地域ごとにどのようなまちづくりをしていくのか、少なくとも3地域や12地域レベルでは丁寧に書けるといい。 ○「都市計画区域外の拠点の強化」という文言は再検討いただきたい。(資料10のP.9)		と反映する。 →中山間地域に多様な特色があることは本市の魅力の一つであるため、地域別構想にて、丁寧に記載する。 →都市計画区域外については、拠点ではなく、主に旧町村の中心地を生活中心地として位置づけ、コミュニティ維持を目的とする。 →中山間地域の位置づけについては、次期総合計画(企画課)、中山間地域での取り組みを支援する部署(地域活動支援課)と調整していく。

項目	第4回専門部会での発言		**
坦	ご意見	事務局等の回答	対応方針
コンパクトなまちづ	○今後まちをコンパクトにしていかなければな		➡都市計画マスタープラン全体
くり(都市施設整備	らないという視点から、誘導区域を優先的に		を通して、市街化区域の中で
の優先順位付け)	整備するという方針が、マスタープランから		も、特に都市拠点を重点的に
	伝わることが必要。		整備していく方針が伝わる記
			載内容とする。
開発許可	○開発許可が増えているという話があったが、	○最終的には土地利用規制の厳格化	➡開発許可の基準を見直してい
	都市マスで開発許可を行わない仕組みづくり	のような話になるかもしれない	く方向で庁内調整する。
	に変えることはできるのか。土地利用の検討	が、まずはその前段階としてハザ	また開発許可の件数について
	等もう少し踏み込んだ検討が必要。	ード危険エリアの周知等を検討し	は、実態を改めて確認する。
		ている。	
市街化調整区域の開	○民間側・開発する側のニーズと今の長野市の		→基本的には市街化区域内にお
発	都市計画はミスマッチしている可能性がある		ける土地利用の促進や都市機
	と感じた。		能の集積を推進する。将来を
	○民ベースの話と行政が積極的にやる話と支援		見据えて都市の持続性を確保
	の話というところの中で、それぞれの区域の		する観点から、基本的には市
	位置づけや拠点の位置づけに応じてどういう		街化調整区域の開発は抑制し
	姿勢で臨むのかといったところは、少し丁寧		ていく方向で検討する。
	に議論する必要がある。		
	○まちなかでやりたいことができるような補助		
	の形に転換したほうが良いと思う。今後のま		
	ちの持続性を考えたときに、際限なく広がっ		
	ていくということは止めなければならないと		
	思う。また、今あるもの、資産を使って企業		
	や一般の方が活動しやすくするという方向に		
	持っていけないかと思っている。		

	項目	第4回専門部会で(の発言	対応方針
	坝 日	ご意見	事務局等の回答	- 对心力虾
	企業立地	○企業立地という項目があるが、まちなかで働		➡産業の促進には、例えば、ま
		く人を増やしていくという視点が重要だと思		ちなかでスタートアップ企業
		う。どのようにすれば新しい産業をしないで		の支援、まとまった用地が必
		促進することができるのかというところの現		要な企業立地等、多様な需要
		状分析と、今後どのように伸ばしていくかと		がある。産業用地の確保に留
		いう観点も必要。		まらず、まちなかで働く場
				所・人を増やす観点も盛り込
				んでいく。
				(第5回専門部会 資料5)
		○産業団地の候補地が浸水想定区域になってい		➡候補地を選定する際は、浸水
		る。		想定区域であることも評価項
				目の一つにしているが、担当
				部署の企業立地課に改めて、
				災害リスクの情報を共有す
				る。
分析方	公共交通	○公共交通の利用のしやすさは、カバー率だけ		➡公共交通の利用しやすさは、
法·結		でなくその質という観点でも見ていかなけれ		主に立地適正化計画の中で検
果につ		ばいけないと思う。		討し、バス路線は30便/日以
いて				上の路線など、サービス水準
				も考慮し、検討する。
	施設の変化	○県や国の施設がこの10年間で増えているが、	○どの施設が増加しているかという	➡主に、社会福祉関係の施設が
		人口が変化している中でなぜ増えるのか。	リストは整理できる。	増加傾向にある。今後は、公
				共施設を都市拠点や少なくと
				も市街化区域内へ誘導するよ
				う方針を盛り込んでいく。
				(第5回専門部会 資料5)

	項目	第4回専門部会で	の発言	対応方針
	坝 日	ご意見	事務局等の回答	对心力剪
	人口の推移	○平成25年の推計と令和5年の推計で、令和5	○自然増減の減少傾向は変わらない	➡行政が計画作成する際には、
		年のほうが人口の減少が緩和するのはなぜ	ものの、社会増減の減少傾向が緩	国立社会保障・人口問題研究
		か。移住が進んでいるからか。長野市のどの	和したことにより、市全体とし	所の算出した人口推計を用い
		ような動きによりプラスの想定になったのか	て、減少傾向が緩和した。	るのが一般的であり、本市の
		解析しておくべき。(資料8のP.4)		人口ビジョンもこれを使用し
				ています。令和5年の推計
				は、近年の外国人の国内流入
				の増加を加味し、全国的に人
				口減少が緩和する推計となっ
				ており、本市も同様の傾向と
				なっていると推察されます。
				本市を取り巻く様々な取り組
				みが結果として減少傾向の緩
				和に繋がっていると思われま
				すが、具体的な理由を特定す
				ることは難しいため、アンケ
				ートの満足度について、前回
				と比較し上昇している項目が
				どのようなものであるか把握
				する。
その他	図の工夫	○都市マス作成の観点がなんとなくでもイメー		➡計画に掲載する図はもちろん
		ジできるように図の表現は注意、工夫してい		のこと、今後の専門部会の資
		ただきたい。		料の図も議論をしやすいよ
				う、見やすいものとする。
	その他	○資料10のP.9の「人口減少下」の「下」の字が		➡修正する。
		間違っている。		